



国家出版基金项目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

侵华日军第七三一部队罪行实录

金成民 主编

七三一部队 兵要地志班调查报告集 (下)

杨彦君 主编



国家出版基金项目
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

侵华日军第七三一部队罪行实录

金成民 主编

七三一部队兵要地志班 调查报告集 (下)

杨彦君 主编

 中国和平出版社

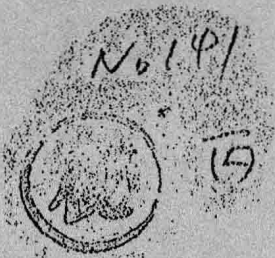
No 141

昭和十四年五月

対ソ進軍作戦上重要視スヘキ疫病ニ就テ

石井部隊村上少佐

1111



對進作戰上重要視スヘキ
疫病ニ就テ

昭和十四年五月

石井部隊
村上少佐

日「ソ」ノ國交ハ暗澹トシテ累卵ノ危ヲ孕ミ朝
 ニ赤軍ト戰場ニ相見フヘキヤ豫断シ難シ
 茲ニ極東「ソ」領進ハ作戰ヲ按スルトキ環境ノ
 劣悪ナル諸惑作「ソ」克服シテ軍陣衛生ノ成果ヲ
 顯現シ陣中防疫ノ運用ニ適正ヲ得テ戰疫ニ因
 ル損耗ヲ防遏シ陣中治療ニ巧妙ヲ得テ戰線復
 歸ニ新記録ヲ齎ラシ現代醫學ノ真髓ヲ發揮シ
 テ人的戰力ノ増強ヲ逐クル等醫學ノ總力ヲ竭
 シテ戰勝基礎ノ強化擴大ニ完璧ヲ期スルコト
 ハ是レ眞ニ皇軍衛生部ニ授ケラレタル大使命
 ナリ
 然リ而シテ疾電迅雷對「ソ」作戰衛生準備ニ邁進
 スヘキ所以實ニ是ニ在リ

1114

若シ夫レ占領地ノ醫學的處理ニ至リテハ民族
 統治上ノ基本要素ヲナスモノト謂フヘシ
 以下豫想作戰地ノ特性ト幾多戰史ノ教フル
 所ニ鑑ミ人的戰力消磨ノ原因タル主要戰疫ヲ
 指摘シ之カ防遏上ノ參考ニ資セントス
 極東ノ領豫想戰場ニ於ケル「マラリヤ」ノ淫浸
 蔓延ニ就テハ眞ニ驚愕スヘキモノアリ即チ沿
 海州一帯ウスリ州ノ各地ニ散在スル水田沼
 澤地興凱湖々岸地區等廣袤數十万ヘクタールニ
 亘リ古來「マラリア蚊」アノフェールスノ發生夥
 シク到ル處ニ年々「マラリア」患者ヲ多クサスヘ三
 日熱「マラリア」主トス

又「ビール河ハ哈州」流域ニ於テハ住民ノ約一
 〇%ニ就キ本病ヲ發見スルノ現況ヨリ呈シアリ
 ラツイシエフノ提唱ニ從ヘハ「マウリア」罹患
 率ハ各種傳染病總罹患率ノ實ニ $\frac{1}{3}$ 以上ニ該當
 スルカ如シ而シテ戰時ニアリテハ益々廣範圍
 ニ蔓延シ之カ猖獗ヲ見ルヘキハ容易ニ想像シ
 得ル所ナリ
 ハツクダサロフ敬授ハ將來戰ヲ按シ「マウリア」
 患者ノ血液ヲ給血源中ヨリ除外セハ赤軍ノ戰
 線ニ於ケル輸血保障ハ殆ント不可能ニ陥ルヘ
 シト述懐シ之カ對策ニ関シ種々研究ヲ累ネツ
 ツアリ
 「ソ」聯邦特ニ極東地方ニ於ケル「マウリア」跋

扈ハ銃上ノ如クナルニ拘ラス當局ノ對「マラリア」醫政ハ未タ徹底シアラス而シテ其由來スル所ハ一ツニ塩酸キニ「ネ」ノ飲乏ニアリト謂フベシ
一箇年間ノ總需要 一ニ六噸ニ對シ供給量ハ僅ニ六噸内外ヲ示セリ
極東「ソ」領ニ於ケル都市ノ「マラリア」治療機關並一九三五年年度治療患者延入負概數

治療機關別	地方共和国別		マラリア治療所	マラリア手當所及巡回治療班	計	取扱患者延數
	極東地方	蒙古共和国	ヤクート共和国	西伯利州	東部	
	三	一	一	一	二	四三〇〇
						一八〇〇
						六〇〇〇
						五九〇〇
						四

爲参考歐洲大戦間独軍カ各戦線ニ於テ出シタル「マリアア」患者ノ概況ヲ表示スレハ尤ノ如シ

戦線名	戦争年次
西部戦線	I (一九一四年) 〇、一五%
東部戦線	I (一九一四年) 〇、一九%
バルカン戦線	I (一九一四年) 一、八%
土耳古戦線	I (一九一四年) 一四、五%
西部戦線	II (一九一五年) 〇、一四%
東部戦線	II (一九一五年) 〇、一四%
バルカン戦線	II (一九一五年) 五、五%
土耳古戦線	II (一九一五年) 九、六%
西部戦線	III (一九一六年) 二六%
東部戦線	III (一九一六年) 一、八%
バルカン戦線	III (一九一六年) 二、三%
土耳古戦線	III (一九一六年) 六五、二%
西部戦線	IV (一九一七年) 二六%
東部戦線	IV (一九一七年) 一、八%
バルカン戦線	IV (一九一七年) 二、三%
土耳古戦線	IV (一九一七年) 八三、七%

茲ニ今次支那事變ニ當リ皇軍カ戰場ニ於テ
受ケタル「マラリア」感染ハ歐洲大戰ニ於ケル夫
ヲ遙ニ超過シアリ因ミニ中支戰線ニ於テハ構
成兵員約四〇%ニ於テ罹患者ヲ發見シ而モ之
カ特效藥タル塩酸キニ「ネ」深刻ナル不足ニ

惱ミ陸内治療ニ十分ナル成果ヲ顯現シ得サル
 モノハ復員後ニ於ケル病源體ノ國內搬入傳
 スクテハ復員後ニ於ケル病源體ノ國內搬入傳
 播ト之ニ基因スル國民體質ノ低下ニ對シ禍根
 ヲ貽スノ危懼ナシトセス
 僭而極東「ソ」領ニ於ケル明日ノ侵入作戰ヲ想
 フトキ戰力ノ消磨ニ及ホス環境惡感作ノ克服
 上先ツ「マ」ラ「ア」ノ防遏並陣内治療ノ完璧ニ心
 血ヲ注カサルヘカラサルヲ痛感スルト共ニ能
 フ可クンハ世代ヲ累ネテ本病ニ懊惱セル住民
 ニ皇恩ノ一端ヲ享受セシメニカ爲メ之カ治療
 ニ馴撫ニ一臂ソカヲ添ヘ占領地統治上ニ聊カ
 貢獻スルヲ要セン

時絶ユルコトナキ事實ニ徴シ我ニ若シ十分ノ
 準備ヘナクハ必スヤ未曾有ノ慘害ヲ現出スル
 ニ至ルヘシ同地侵ル作戰ニ當リ之カ防遏ニ重
 點ヲ指向スヘキ所似ハ實ニ是ニ在リ
 ス極東ノ領豫想戰場ニ於テハ廣範圍ニ亘リ
 トノ淫浸アリ特ニザバイカル地方ハ常ニ本
 病流行ノ根源ヲナセリ而シテ同地方ニ多數
 急セルタルバガシハ之カ傳播媒介ニ對シ大ナ
 ル役割ヲ演シアリ本獸ノ當地方ニ於ケル棲息
 地域ハ其ノ面積數方平方露里ニ亘ル
 地出動地ニ於テ一度本病流行ヲ惹起セン
 カ戰鬪ノ進捗ヲ著シク阻害スルノミナラス或

ハ戦カヲ崩壊ニ迄導クノ結果ヲ生スヘシ而シテ之カ戦場防疫ハ素ヨリ國內搬入ニ對スル防疫ハ極メテ重要ナリ

(一) 参考資料

一九一九年ヨリ一九二五年ニ至ル七箇年間ニ亘リ「ザバイカル」地方ニ發生シタル「ペスト」主トシテ肺ペストニ就キ主ナル發生地ヲ指シハ次ノ如シ

年度別	發生地	罹患者數	治療	死亡	備考
一九一九年	マツエフスカヤ驛	二	一	一	二
一九二〇年	ダウリヤ驛	三	一	一	三
〃	第八十三待避驛	一	一	一	一
〃	アバガイトウイ村	五	一	一	四

一九二三年	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	一九二一年	カ	カ
カイラストウイ村	ムリノ村	ハラノール驛	第八十三待避驛	ボルジャ驛	ダウリヤ驛	不詳	クリチキ村	ブルシロフスキ村	カイラストウイ村	カプツアガトウイ村	カイラストウイ村
一	二〇	一	一	二	二	四	六	一	一〇	八	二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一
一	一九	一	一	二	二	四	六	一	一〇	六	二

年 度 別	發 生 地	罹 患 數	治 療	死 亡	部
一九二二年	ハラノール村	五	一	一	五
〃	第七十六待避驛	—	—	—	—
〃	ダウリヤ驛	三	—	—	三
一九二三年	第八十三待避驛	二	一	—	二
〃	チンスキー細菌研究所	二	一	—	二
一九二四年	第八十三待避驛	二	一	—	二
〃	ハラノール村	—	—	—	—
〃	トウルギンスコエ村	三	一	—	三
一九二五年	ナダロフスキ村	—	一	—	—
〃	ナロフヤンナヤ驛	—	一	—	—
〃	アレキサンドロフスキ場	—	—	—	—

右ノ表ニ徴スレハ其ノ死亡率ハ極メテ高ク
 九四・五%ニ達ス
 註、西伯利出兵衛生史ニ據レハ「アバガイド」
 及「ダウリヤ」附近ニ於テハ大正九年八月下
 旬ヨリ十月下旬ニ亘リ腺「ベスト」ノ散布ヲ
 見タリト
 (二)「サバイカル」地方「ベスト」豫防機関左ノ如シ
 一「サバイカル」ベスト豫防研究所
 二、守壁驛「ベスト」豫防隊
 三、ボルジンスキイ「ベスト」豫防所
 四、「カイラストウイスキ」村「ベスト」豫防所
 五、「ベスト」豫防列車
 六、「タルバガン」狩獵組織

(三) 沿海州ニ於ケル「ペスト」發生ニ関シテハ最近
ノ資料ナキヲ以テ西伯利衛生誌ヲ繙キ其ノ
跡ヲ覩ルニ大正九年一月「ハルビン」ヲ襲ヒシ
肺「ペスト」カ三月上旬「ボク」ラニ「ウナヤ」ヨリ
「ニコリス」ク「ウス」リ「スキ」ニ侵入シ四月上
旬ニハ「浦潮」ニ及ヒ六月末迄ニ於ケル同市ノ「ペ
スト」流行ニ於テ沿海州及北滿ニ發生シタル
「ペスト」患者ハ總數實ニ八千七百餘名ヲ算シ
内肺「ペスト」患者ハ悉ク死ノ転飯ヲトリタリ
極東「ソ」領侵入作戰ニ於テ戰鬪乃至駐軍久シ
キニ亘リ而モ給與休養ノ適正ヲ欲クトキ就

病ヲハ給養ノ質的量的飲陷ニ因リ近年屢々本
 テハ給養ノ質的量的飲陷ニ因リ近年屢々本
 二斃ルモノ年々号數ヲ算セリ
 且ツ給養上ハ些々タル不注意ニ基因シ本病
 土ニ馴致服合シアル土民ニアリテスラ猶ホ
 的氣象學的的要約ヲ具備シアリ然リ而シテ地
 抑々極東ソ領ハ本病ノ發生ニ好適ノ地理
 ルハ敵彈ニテ因ル夫ヲモ遙ニ凌駕スルコトア
 陷ルニ於テハ壞血病ノ号數ヲ惹起シ其ノ慘
 鎖杜絶ニ遭遇シ罐詰類乾燥食品等ノ偏食ニ封
 中冬季ニ於ケル生野菜ノ缺乏カ補給ノ封